

令和7年度 大阪府立大手前高等学校 第1回 学校運営協議会
議事録

令和7年6月10日

【議題等（次第順）】

- ・ 校長挨拶
- ・ 委員紹介
- ・ 会長 副会長選出
- ・ 会長挨拶
- ・ 議題
- ① 学校経営計画
- ② 入試結果報告
- ③ 中学生への取り組み紹介
- ④ SSHの取り組み紹介
- ⑤ 令和8年度使用教科図書選定

【協議内容・承認事項等】

- ・ 会長 副会長選出
- 委員の互選により、野口委員を会長に、高橋委員を副会長に選任した。

【議題①】 学校経営計画

◎資料：令和6年度学校計画及び学校評価、令和7年度学校計画及び学校評価

◎概要：

R6学校経営計画と学校教育自己診断について確認した後、R7学校経営計画と本年度の取り組み内容について確認した。令和6年度では、コンクールの受賞数の向上を目標にしていたが、サイエンスデーや科学甲子園などで本校生徒が受賞したことで目標は達成された。課題研究はコンテストだけを目的にしているわけではないが、コンテストに出場することで得られる学びがあるとの説明があった。

遅刻に関しては毎年10%減を目指しているが、令和6年度では達成できなかった。しかし、遅刻数自体は年々減少傾向にある。また、以前までは8時25分までに登校していなければ指導していたところを、8時30分までに来るという意識を生徒自身が持つという次の段階の指導にするために、25分指導をなくしたという経緯もある。さらに、朝のショートホームルームがなくなったこともあって今年度は遅刻数が増える可能

性があるが、生徒の自主性は高まってきているとの説明もあった。朝のショートホームルームがなくなったことで、少し放課後にゆとりができるようになったことは大きい。

[質疑応答]

(委員) 時間外勤務が前年度より 10%増加しているのはなぜか。

(校長) 一昨年減少した分が戻った。前期後期制で、後期に時間割変更の必要が生じることが要因のひとつである可能性が高い。GL10 校ということもあって、教育の質を維持するためにも全ての業務を簡易化したり減らしたりすることは難しい。業務を精選していきたい。

(委員) 重要なのは、精神的に追い詰められている教員がいないかどうか。その把握を管理職にお願いしたい。教員の中には一生懸命頑張り過ぎてしまう人もいる。

【議題②】入試結果報告

◎資料

R6 大学・短大・専門学校合否状況、各大学合格者の推移、京大研修保護者宛て文書、もっと京大実施要項

◎概要

R6 年度入試結果の説明が行われた(国公立は現役約 150 名、浪人で 80 名から 90 名。私立は現役 100 名。例年約 110 名が浪人し、その内 80 名から 90 名がその翌年国公立に合格)。

また大手前高校の進路指導について、生徒自身がやりたいことを決めて、進学先を選べるよう指導・支援していくというものであるとの説明もあった。日頃の進路指導だけでなく、京大研修、もっと京大(希望制研修)、阪大研修などの取り組みを通して、生徒の視野を広げるように取り組んでいる。

[質疑応答]

(委員) どのような大学に進学してほしいなど、学校として具体的なビジョンはあるか。

(校長) 偏差値などで大学を選ぶのではなく、目標を持って自分でやりたいことを考えて決めてほしいという気持ちがある。入試結果は後からついてくるものだという認識をしている。

(委員) 自分が目指した大学に行けたかどうかの調査はしているか。

(校長) 今は特にしていない。

(委員) 入試結果を見ていると、あらゆる地方大学に進学している生徒が多く、進路が多様化しているのが分かる。学校が生徒の多様な希望に対応していることが見受けられるのが良い。

(事務局) 中学から入学してきた当初はやはり進路に対する視野は狭かった。生徒の進路に関する視野を広げるというのも教員の責任だと考えている。昨年度の3年生は色々なことを考えて進路を選んでくれた。

【議題③】中学生への取り組み紹介

◎資料：オープンスクール案内、学校パンフレット

◎概要：

新入生・保護者アンケートの結果において「大手前高校を選んだ理由」の項目が顕著であったと説明があった。保護者はSSHやGLHの取り組みを選んでしたが、生徒は学校行事や部活動を理由として選んでいた。その理由の一つとして、オープンスクールの際に自治会の生徒が中学生を案内しているということが挙げられる。生徒が案内するために学校行事や部活動の紹介が焦点になり、SSHやGLHの魅力をも十分に中学生に伝えられていないということが課題。GLHなどの取り組みをどこで紹介するかということを考える必要がある。オープンスクール案内ポスターの作成や、パンフレットの更新など、広報活動に注力している最中。保護者と話す機会も増やしたいとの説明もあった。

[質疑応答]

(委員) アンケート結果を見ていると、ホームページや見学会で大手前を決めたという人が多いことが印象的で、その重要性が窺える。多くの公立高校の定員が割れている中で、中学生の憧れの高校としての大手前高校を維持するために、精力的に魅力を発信していく必要がある。

【議題④】SSHの取り組み紹介

◎資料：スーパーサイエンスハイスクール研究開発実施報告

◎概要：SSHの取り組みでは、国際交流・数学事業・課題研究を軸に取り組んでいる。

①国際交流

昨年度は台湾の高校との交流（学校受け入れやオンライン交流）、姉妹校イギリス・ペングライス高校への留学、シンガポール研修を実施。多様性や異文化に対する理解が深まった他、専門的な企業訪問などを通してグローバルに働きたいという意欲も向上した。今年度3月にはコロナ禍で長らく延期になっていた高校生国際科学会議を本校で開催。台湾、ベトナム等からの高校生が出席予定。

②数学・課題研究への取り組み

昨年は数学の取り組みを最大限にできた。主に専門性の高い取り組みと地域に密着した取り組みを実施。専門性が高い取り組みとして、マスフェスタ（高校数学研究の全国

大会)、マスキャンプ(海外から講師を招いて英語で数学の授業を行う)、マスタワー(九州大学にて数学研究の見学)を実施。また地域に密着した取り組みとして、マッセミナー(中学生を対象にした体験教室)、プログラミング学習会(中学生を対象)を実施。今年開催するマスタフェスタでは、地域の中学生や教員を招待することも考えている。科学オリンピックやコンクールでも受賞。課題研究の基盤が充実してきている。

[質疑応答]

- (委員) 外部の人から見ても、大手前高校は数学が強いという印象があるのか。
- (事務局) 数学の探求に特化しているのが本校の強みであるが、数学の課題研究それ自体のノウハウがまだ少ないことが現状。
- (委員) そのあたりをもう少しアピールするのはどうか。
- (委員) 理科の課題研究の取り組みは他校でも見かけるが、数学の課題研究の取り組みはあまり見ない。十分アピールになるはず。他校の教員との連携などは考えているか。
- (事務局) マスタフェスタで教員の交流会なども将来的にできたらと思う。
- (委員) これだけ魅力的な取り組みをしているということの中学生や中学校の教員に積極的に見せていく必要がある。数学を核にした大手前の取り組みの全体像のビジョンを持つことが大切。研究会などに呼びかけなどして中学校の教員を招待するのはどうか。
- (委員) 中学校の教員が数学に興味がある中学生と大手前高校を繋げてくれることを期待したい。

【議題⑤】令和8年度使用教科図書選定

教頭より、現在令和8年度使用教科書を選定中であるため、決定次第委員にメールで連絡するとの説明があった。

【今回の協議会を終えての意見・感想】

- (委員) 今回の協議会では、あらゆる取り組みが理にかなった方向性にしがたって行われていることが分かった。しかし、教員も限界のラインで働いている。それらの事業をより効果的にしていくにはどうすべきかを考える必要がある。
- (委員) 生徒が一番接する時間が長いのは教員ということもあり、やはり教員の負担軽減を考えていきたい。ICTの活用も重要。保護者対応などにメールなどの情報ツールを適切かつ的確に使用する必要がある。
- (委員) 公立高校の状況が変わる中でも、やはり憧れられる学校であり続けてほしい。また、中学生のみならず中学校の先生にとっても魅力的な大手前高校であることが大切。